

兵庫県下でのイトヒゲニセマキムシの採集例

(兵庫県甲虫相資料・154)

高橋寿郎

イトヒゲニセマキムシ *Dasycerus japonicus* Nakane, 1963 は兵庫県篠山で中根猛彦博士が採集(28-Ⅳ-1952)された標本に基いて新種記載されたものである(Frag. Coleop. pars. 5:22, 1963)。同時に同博士は原色でも図説された(原色昆虫大図鑑, 第2巻, pl.36, f.2, p.71, 1963)。最近多比良嘉晃氏は静岡県下での採集記録を発表された(静岡の甲虫, 第2巻, 第1号, p.17-18, 1983)。その中で本種の日本での採集例の記録をまとめておられる。

兵庫県下では原記載の産地以外全く記録が無いが筆者は相生市三濃山で採集した標本6 exs. (1 ex., 28-Ⅳ-1974, 1 ex., 12-Ⅴ-1974, 1 ex., 18-Ⅴ-1974, 3 exs., 29-Ⅶ-1974)を所有しているので此処に県下での二番目の記録として紹介しておきたい。

採集状況は残念ながら余りはっきりおぼえていない。多比良氏も記しておられるように本種は可成り分布の広い種のように微少なため見落されていると思われる。県下にも他に産地は恐らく多くあることゝ考えられる。多比良氏は枯朽木樹皮下等にいる種のようにだと記しておられる。

(1985年2月)

兵庫県産二種のハムシの記録

(兵庫県甲虫相資料・155)

高橋寿郎

○ オオサルハムシ *Chrysochus chinensis* Baly

余り小さくないハムシなのであるがどうしたわけか兵庫県下からの記録は古く Heyden の Hio-go (1879) と言うのがあり山本義丸氏の氷上郡黒井町(1953, 1958)が知られているだけでその後記録が見られない種である。1984年加東郡東条町森地域で蜂谷幸雄氏と一緒に環境調査に出かけた際蜂谷氏が 1 ex. (22-Ⅷ-1984) 採集されたので此処に記録しておきたい。

本種の食草はイヨカズラ・サツマイモが知られているし、分布も割合広いようなので調査をすれば県下の産地はもっと見つかると思う(標本蜂谷氏保管)。

○ テントウノミハムシ *Argopistes biplagiatus* Motschulsky

本種は兵庫県下での記録は今迄無かったように思われる。筆者は1983年9月14日市内烏原で叩網で1 ex.採集した。また蜂谷氏採集のハムシ標本を見せて頂いたところ同氏が東灘区岡本で採集された1 ex.があった(Ⅶ-1968)。

黒色で上翅に赤紋を有する特異な形態で一見してわかる種である。

最近熊沢隆義氏が宇都宮で大発生した本種に就いての報文を発表しておられる(インセクト 34巻 2号, p.88, 1983)。それによると本種はヒイラギを食害して成育するようで卵越冬で6月頃成虫は羽化して出現するようで10月末にはヒイラギの葉裏に卵を見られるとのことであった。

(1985年2月)

イワキオチバゾウムシ(?)神戸市内に産す

(兵庫県甲虫相資料・156)

高橋 寿郎

神戸市内の烏原地域で半分程落葉の中にうづもれていたコナラの樹を引っくり返して見たところ小さなゾウムシが1頭ついていた。早速採集すると同時に更にいないかと詳しく調べて見たがみられなかった。尤も落葉とかそのあたりの土も一緒に持ち帰りベルレーゼ装置でも調べればもっといたのかもしれない。とりあえず1頭しか採集出来なかったのであるが一応検鏡して調べて見たがどうも中根博士の図説されている *Otibazo morimoto* Nakane (日本昆虫大図鑑, pl.184, f.24, p.268, 1963) に該当するように思われる(原記載 *Frag. Coleop. Pars.9*, p.36, 1963)。

この属には森本博士が *O. nagasakiensis* Morimoto (Kontyu, 29巻, 1号, p.25-27, 1961) を記載詳しい図もついているがこちらの種ではないと思われる。標本はどうも♀標本なので今一つはっきりしない。森本博士が指適 (*Nature Study*, 16巻, 1号, p.7, 1970) されたように中根博士の記載が割合簡単できめ手となる点がよくわからないが一応本種として同定しておきたい、もっと材料を集めて見なくてはならないが兵庫県下からは初めての記録になる種だと思われる。

産地: 神戸市烏原 (1♀, 5-Ⅳ-1983) (其の後森本博士に見て頂いたが *O. morimotoi* に近い種であるとの御返事を頂いている。標本は同博士の手許に保管されている)。